

《講演要旨原稿の書式》

横 100 mm, 縦 150 mm に納まるように印字ください。

例えば以下のページ設定 (A4 縦) のもとで、印字する全体を 29 行とすると、所定のサイズになります。

余白：上 46 mm, 下 25 mm, 左右各 55 mm

一行字数：26 文字, 行数：44 行

フォント (和)：MS 明朝 11 pt, (英)：Century 11 pt

- 1) 著者名とタイトルの間はコロン “:” とする。
- 2) 共同研究の場合は、演者の左肩に “○” をつける。
- 3) 著者名：タイトルと本文の間は 1 行空ける。
- 4) 共同研究で研究者の所属が異なる場合は、“*” 記号で区別する。
- 5) 所属名は公式な略記を使用する。

《講演要旨原稿の書式見本》

○石井織葉*・出井雅彦**・鈴木秀和*・南雲保***・田中次郎*：*Pinnularia* 属 2 種の有性生殖と増大胞子の微細構造

Pinnularia 属の有性生殖に関する知見は、これまでにいくつか報告があるが、未だ不十分である。今回、東京都神津島で採集した淡水産試料を単離培養したところ、*Pinnularia* 属の 2 種が有性生殖を行い増大胞子を形成したので、その詳細を報告する。

P. major: 配偶様式は同株性。Geitler (1973) に基づく増大胞子形成様式は type IIB1 (各配偶子嚢に配偶子を 1 つずつ形成, 能動敵配偶子および受動的配偶子, 受動的配偶子嚢内で接合, 明瞭な接合膜をもつ)。*P. brevicostata* var. *sumatrana*: 配偶様式は同株性。増大胞子形成様式は type IC (各配偶子嚢に配偶子を 2 つずつ形成, すべて受動的配偶子, 配偶子嚢外で接合, 母殻と並行に増大胞子伸長)。

[略]

・・・また, *P. major* のキャップを構成する鱗片は, 部位によって異なる形態を示したので, これについても考察する。

(*海洋大・藻類, **文教大・生物, ***日歯大・生物)